

第二十五回「九月は日奈久で山頭火」——待ってまあす ゆあ俳句——入賞作品

【大賞】

秋立つや美^はしき雨降る山の宿
森坂よしの (熊本市)

——一般の部——

【秀作】 秋風や夫婦暮らしに余る箸
吉崎 和郎 (熊本市)

ねじ花が今年も咲いて母が居て
宮澄 陸子 (美里町)

秋時雨火種のように母が居る
畑田 孝子 (美里町)

【入選】 手に何も持たぬ軽ろさやあきつ飛ぶ
山田 節子 (美里町)

昼寝覚め残りひとつの塩むすび
立山ひろ子 (山鹿市)

そよぎつつ花野静かに広がれり
萱嶋 晶子 (八代市)

風ぐせのとれぬ野の草月に挿す
坂川奈々子 (八代市)

秋風がもう下りてゐる無人駅
吉永 時男 (熊本市)

——ジュニアの部——

【秀作】 こおろぎやねむれぬ夜の子守歌
田上 円香 (八代第一中三年)

温せんの湯気といっしょに出るつかれ
今井 愛華 (日奈久小五年)

降る雨で汗も涙も流れけり
田島 豪流 (鏡中三年)

【入選】 梅雨入りが遠く聞こゆる蝦蟇の声
萩平 隆叶 (八代第七中三年)

北風に吹かれるたびに家こいし
緒方 大煌 (八代第七中三年)

風受けて夏のおいの帰り道
出口 柚姫 (八代第四中三年)

初雷や合奏中に割って入る
澤村 唯愛 (八代第四中三年)

歓声が残暑消しさるコンサート
泉 凜桜 (鏡中三年)

【選者特選】

前山 光則選 昼寝覚め残りひとつの塩むすび
立山ひろ子 (山鹿市)

山下しげ人選 ぼかぼかと春物買いに父と行く
谷口 結菜 (八代第四中三年)



投句数 ジュニアの部426句 一般の部222句